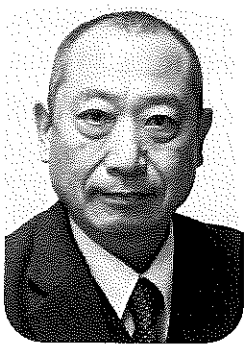
栃木県中学校長会報

第117号
発　行
平成28年２月５日
編　集
栃木県中学校長会広報部

平成27年度を振り返って



栃木県中学校長会長
宇都宮市立豊郷中学校長
駒　田　郁　夫

今年度もあとわずかとなり、各校長先生方におかれましては、卒業や進級、次年度の学校経営計画作成などに向けて、多忙な毎日をお過ごしのことと思います。

今年９月の集中豪雨では、いくつかの学校で被害があり、休校が続いた学校もありました。心からお見舞いを申し上げます。関東甲信越地区〈以下、関地区と略〉中学校長会長からも、栃木県の被災に対しお見舞いのお電話をいただいておりますことをお知らせいたします。

さて、今年度の栃木県中学校長会にとって一番大きな出来事は新事務局長の就任です。私はじめ本会役員が自校の学校経営に専念できる状況の裏には、事務局の存在があります。初めて取り組む慣れない業務ではあったと思いますが、各理事の校長先生方のご協力もいただき、本会の事業を計画通りに進めていただきました。

本会の主な事業として、総会並びに研修会（５月）、理事研修会（４・７・11月）、研究大会（９月）、各専門部研修会、県教育長と校長会長との懇談会（６月）、県教委と小中学校長会との教育懇談会（８月）、県教委・県立高等学校長会との懇談会（10月）、関地区中学校長会山梨大会（６月）、全日本中学校長会福岡大会（10月）、理事・協議員研修会（２月）等を実施しています。

特に研究発表関係では、関地区中山梨大会の第５分科会「生徒指導」において芳賀地区校長会の皆様に、また、県中研究大会では、南那須地区と宇都宮地区の校長先生方にご発表いただきました。どの発表も地区校長会の組織を挙げて研究に取り組まれ、研究主題に迫る素晴らしい発表でした。こうした研究の成果を生かしつつ、平成30年度の関地区中研究大会栃木大会に向けてさらに研究を深めていきたいと思います。

なお、関地区中研究大会の栃木大会については、平成30年６月14日㈭・15日㈮の２日間、宇都宮市の総合文化センターやホテルを会場に開催することが決定しています。現在、事務局による組織作りとともに、研修部による研究主題等の検討を進めています。来年度から本格的な取組となりますので、会員の皆様のご協力をお願いいたします。

進路対策部では、第２回進路希望調査の実施時期について検討を進めていただきました。これまで複数年にわたり要望してきた事項ですが、実施時期の変更に伴う課題もありますので、各地区のアンケート調査の結果を踏まえて、年度内には本会としての意向を取りまとめたいと思います。

また、理事会では本会の会費の値上げについてもご検討いただきました。各地区においても賛否両論があったものと思いますが、次年度からの値上げについてご理解をいただいたものと認識しております。今後、具体的な手続き等を確認しながら進めていく所存です。

結びに、本会目的達成のためにご協力いただいた多くの会員の皆様に、この場をお借りして感謝申し上げますとともに、今後とも本会にご協力を賜りますよう重ねてお願い申し上げまして、私のあいさつといたします。

事務局だより

４月に後藤前事務局長より、事務局を引き継ぎ、今日まで、理事会、総会、県教委との教育懇談会等と訳の分からぬまま、めまぐるしく事務局運営を行ってきました。更には、関地区事務局長会にも参加させていただきましたが、まだ要領を得ないことばかりです。やっと今になり、多少なりとも事務局の仕事の内容が理解できるようになって参りました。また、これからは、平成30年関東甲信越地区中学校長会研究協議会栃木大会に向け、事務局の仕事の内容が大きくなり重要になって参ります。遺漏の無いように早め早めの準備を心掛けていくつもりではありますが、事務局だけでは、到底なし得ることはできません。全県挙げての取組でありますので、会員の皆様のご協力をお願いいたします。

（事務局長　片桐　晃）

県教委との教育懇談会

広報部長　持田光世
（宇都宮市立横川中学校長）

平成27年8月6日㈭、宇都宮市のホテルニューイタヤにおいて、「県教委と小・中学校長会との教育懇談会」が開催されました。

小学校長会19名、中学校長会16名で臨み、県教委側は金井正教育次長様はじめ20名の関係者に出席いただきました。中学校長会の駒田郁夫会長、金井正教育次長の挨拶の後、総務部長の小堀茂雄宇都宮市立清原中学校長が提案事項を説明しました。

中学校長会提案事項

1　現状を踏まえた教職員人材確保と教職員配置の改善
(1)　少人数指導、児童生徒指導、不登校、指導法の工夫・改善のための教員の加配拡充
(2)　免許外教科指導及び臨時免許状対応解消のための非常勤講師の増員・配置
(3)　正式採用教員の確保
(4)　生徒指導上の問題など様々な課題を抱える生徒を支援するための非常勤講師の増員
(5)　地域連携教員の配置に伴う円滑な実施に向けた支援と情報提供及び週休日における服務（勤務態様）の明確化

2　特別支援教育推進のための諸条件の整備
(1)　特別支援学級担当教員の計画的な育成と配置
(2)　発達障害のある生徒が在籍する通常の学級への非常勤講師の増員
(3)　通級指導教室への加配教員の増員

3　部活動の諸問題の解決に向けた取組の強化
(1)　部活動担当教員の負担軽減のための社会体育の充実及び地域スポーツ指導者派遣等の一層の充実

4　その他
(1)　県立高校入学者選抜の制度改革に対する成果と課題の検証及び情報の共有
(2)　学力向上に係る施策の検証及び「とちぎっ子学習状況調査」の中学校全学年実施
(3)　教職員の精神性疾患の未然防止のための対策の充実
(4)　研修・出張旅費の確保と旅行命令に関する校長の裁量権の維持

これらの提案事項に対して、県教委側からは各担当者が一つ一つの事柄について、本県の現状や展望を示しながら、今後も国への要望を継続していくことや財政の許す限り努力する旨回答があり、有意義な懇談会となりました。

県教委・県高等学校長会との懇談会

進路対策部長　沼尾行夫
（栃木市立栃木東中学校長）

平成27年10月8日㈭とちぎ青少年センターにおいて県教委、県高等学校長会と県中学校長会（会長、進路対策部員が出席）との懇談会が開かれました。以下の項目について要望・提案をしました。

1　一日体験学習
(1)　受付方法について
(2)　日程調整について
(3)　体験内容について
(4)　特色選抜の説明について

2　入学者選抜の方法
(1)　一般選抜について
①　ＨＰでの発表時刻について
②　合格発表のメール配信依頼について
③　特色選抜の合格内定発表から一般選抜の出願までの期間について
④　配付文書（面接時間の記載等）の依頼について
(2)　特色選抜について
①　資格要件について
②　部活動の実績について
③　志願理由書について
④　面接時間の記載について
⑤　学校作成問題について

3　募集方法
(1)　中高一貫校における一般選抜の実施について
(2)　隣接県協定について

4　その他
(1)　受付事務の効率化について
(2)　進路希望調査について
(3)　調査書の統一等について
(4)　外国籍生徒に係る募集について
(5)　高等学校の募集定員の増減について

県中学校長会として、高等学校入試等における改善要望事項等について、高等学校の取組状況や県教委の考え等を聞いたり意見交換をしたりすることができ、とても有意義な懇談会になりました。

地区校長会だより

河内（上三川）地区校長会

本地区は上三川町単独で、中学校は3校（本郷中学校・上三川中学校・明治中学校）により組織されています。3校の組織では、充実した内容の研修会を実施することは難しいため、宇都宮市の研修会に仲間入りさせていただくことが多いのですが、町内の校長会としては、小学校7校と合同の計10校で校長会を組織しています。定例会が年6回行われるほか、組織作りや講師を招いての研修会が年に4回実施されます。6月19日には、河内教育事務所と上三川町教育委員会を招いての合同会議が行われ、ふれあい学習課の事業や教職員の服務規律の確保などについて話し合われました。また、「とちぎ学力向上推進事業」や児童生徒指導について活発な話し合いが持たれました。10月1日には、元川越市教育委員会教育長で、現在は埼玉大学教育学部非常勤講師で共栄大学教育学部特任教授である、山浦秀男先生を招いて、「授業の中で『学習指導』と『生徒指導』を一体として、児童生徒一人一人のよさや可能性をさらに伸ばす取り組み」と題して講話研修を行いました。短い講話時間でしたが、その熱い語り口と、講演内容が今日的課題であったことで、講話の再実施を望む声があがるほどでした。

年6回の定例会では、まずは小中合同で各校の情報交換や町行事への協力体制などについて話し合われます。各校共通に行われる行事や取り組みに関しては、その問題点や改善策についてまとめ、町当局や関係部署に要望していく活動などもしています。合同会議後には小中別の会議が開かれますが、わずか3校での話し合いなので、各校の実情を細かなところまで交換し、それぞれが自分のこととして考え受け止める運命共同体としての関係性を築いています。

河内教育事務所や町教委を招いての歓迎会を兼ねた懇親会なども年度の当初に行われています。また町教育委員との懇談会が年1回実施され、学校経営への提言をいただいたり、新たな取り組みのヒントなどを得たりしています。

［上三川町立上三川中学校長　隅内　和男］

下都賀中学校長会

下都賀中学校長会は、野木町2校、壬生町2校、下野市4校の計8校の中学校で組織されています。

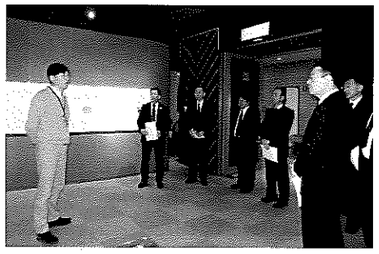
今年度は「『本校ならでは』の主体的・自立的な学校経営の在り方」を研究テーマとし、会員相互の研修を深め、各学校の主体性を尊重しながら、正しい考えを持って学校運営に当たれるように、「腹を割った」意見の交換や、情報交換を行っています。

研修は、各中学校を会場とし、順に回っていきます。主な研修内容は、会場市町の教育長等の講話や特色ある教育施設の見学、会場校の学校経営の説明と校内施設の見学、県中理事会の報告や各専門部からの報告、情報交換などです。

7月9日には「しもつけ風土記の丘資料館」を会場に下野市教育委員会事務局の野沢教育次長より講話をいただき、木村技師からの説明・見学研修を行いました。11月26日には「壬生町立歴史民俗資料館」を会場に、同館の中野学芸員を講師にして見学研修を行いました。郷土を知り郷土に誇りを持たせるために、各地にある教育施設活用の重要性を再認識しました。各学校の学校経営説明では、学校の地域性を踏まえた、熱意と工夫のある話を聞くことができ、校内施設の見学では、掲示物一つをとっても自校との比較ができるなど、大変参考になっています。

四方遠方からですが、毎回、集まるのが楽しみになるような研修会が運営されています。

［下野市立南河内第二中学校長　上野　保久］



壬生町立歴史民俗資料館にて

私の学校経営

「この学校で学べてよかった」楽しい学校づくり

小山市立絹中学校長　柏　崎　正　喜

私がつくりたい学校は、「生徒が『この学校で学べてよかった』と思う学校」である。生徒が「この学校で学べてよかった」と思えば、保護者は「子どもをこの学校に通わせてよかった」と思うし、職員は「この学校に勤めてよかった」と思うはずである。また、地域の方々も、子どもたちが生き生きと、明るく育つ姿を見れば、喜んでくれる。このような楽しい学校をつくるために、行事の挨拶や講話を通して、生徒及び職員に日々言葉かけをしている。

特に、3年生には、「下級生が憧れる3年生になってほしい、君たちが絹中の顔である、絹中の歴史に新しい1ページを築いてほしい」と激励し、学校行事などをやり遂げた後には、必ず、活動の過程と結果を認め褒め、1・2年生には、「これが来年の君たちの目標だ」と言い続けている。1・2年生が「こんな3年生になりたい」と思うようになってほしいと願っている。

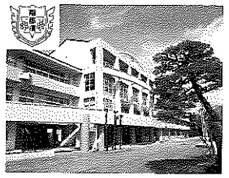
職員には、「職員が楽しく勤務できなければ、子どもたちは学校が楽しくならない。」との考えから、風通しの良い職場、協力し合う雰囲気のある職場、失敗やミスを話せる職場づくりが、管理職の仕事であると話している。また仕事には軽重と優先順位を付け、見通しと計画をもってあたること、諸事全てにおいて一人で抱え込まないで、組織で対応すること、特に、若手職員は自分の指導や悩みを口にするよう指導している。

本校は、来年度創立70周年を迎え閉校し、再来年には地域の小学校とともに小中一貫校に生まれ変わる。学校がどう変わろうとも「この学校で学べてよかった」「子どもをこの学校に通わせてよかった」「この学校に勤めてよかった」という楽しい学校づくりを推進していくことに変わりはない。

2・3年生による歓迎の歌「With You Smile」（入学式）

新たな歴史と伝統の創造

那須烏山市立南那須中学校長　山久保　拓　男



平成27年4月1日、旧下江川中学校と旧荒川中学校が統合し、旧荒川中学校の校舎を使い、新設校として「南那須中学校」が誕生した。統合にあたっては、統合準備委員会を立ち上げ、校名や制服、校章、教育活動等について検討を進めてきた。

校名については、一般からの公募をもとに、最終的には、両校とも旧南那須町にあったこと、公募での数が最も多かったことなどから「南那須中学校」に決定した。同時に、旧南那須町時代の歴史と伝統を表す「茄子紺色」と調和と融合、そして明るく元気な生徒の躍動をイメージした「若草色」の2色をスクールカラーに決めた。校舎の柱や壁、運動部のユニホームなどに取り入れている。

校章については、両校の生徒から原案を募集し、専門家に推敲を依頼し完成した。市の花であるこぶしや未来へ羽ばたく翼をあしらうなど、新設校にふさわしい斬新なものとなった。

校歌については、制定委員会を立ち上げ、今年度の12月を目途に完成させ、卒業式には間に合わせる予定で進めているところである。

教育活動については、昨年度より両校職員が定期的に集まり、原案を作成し、年度当初の運営会議、職員会議等で話し合い、共通理解を図った。

現在、新設中学校として、「皆実成す」を合い言葉に、さらなる調和と融合を図りながら、明るく元気な生徒の育成に努めているところである。今後とも新たな歴史と伝統の礎を築くため、生徒・保護者・地域・教職員が一体となり、活力ある学校づくりを推進していきたいと考えている。

統合して八ヶ月が過ぎたが、教育活動の様々な場面で新しいものが創り出されるなど、南那須中学校としての新たな歴史と伝統が着実に積み上げられていると実感しているところである。

「前進　山辺中」
～地域と共に歩む学校経営～

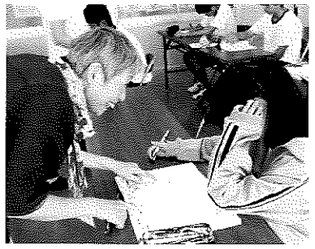
足利市立山辺中学校長　菊　地　廣　光

1　「前進　山辺中」とは

表題にもある「前進　山辺中」とは、山辺中のスローガンで、「生徒一人ひとりの確かな成長」を実現させていくという熱い願いを一言に集約したものになっています。この言葉は、生徒、職員のみならず、保護者や地域の方にも浸透している合言葉になっています。

2　「前進　山辺中」具現化のための取り組み

この「前進　山辺中」を具現化するために、より開かれた学校づくりの推進をしています。



例えば、夏休みに1週間ほど行う「自主学習会」では、地域の方や大学生、保護者の皆さんが学習ボランティアとして子ども達の学びを見守っています。また、地域の方、保護者の方に気軽に学校に来てもらおうと「学校公開」を年9回行っています。さらに、「地域の一員としての中学生」という視点から、子ども達が地域の人達と交流するボランティア活動を推進しています。

3　「地域」から「知域」へ

いつも近くに居て、心和らぐ存在…地域は学校の恋人です。子ども達と地域の人が「知り合い」、「つながる」ことで、「地域」が「知域」になっていきます。これこそが、何にも代えがたい、子ども達にとっての生きた学びなのです。

山辺中学校が目指す「地域連携」は、学校という場の中で、あるいは学校という組織を利用して、地域の中で子どもの視点から「知り合い」をたくさんつくる、そこを大切にしています。

新任校長の一言

母校に赴任して

茂木町立茂木中学校長　涌　井　俊　一

小学校に3年間校長として勤務しましたが、今年4月に中学校にもどってきました。

本校は、平成20年12月に茂木町の木材をほぼ100%使って建築した木造校舎として全国から注目され、すでに全国からの視察者も1万人を越えました。竣工から7年が過ぎましたが、ほのかな桧の香りが校舎中に漂い、生徒たちもその癒し効果がプラスされ、落ち着いた学校生活を送っています。

本校に着任して驚いたことは、廊下にも教室にもゴミが一つも落ちていないことでした。そのわけは4月8日に生徒たちが登校し、清掃をしている姿で納得しました。みんな膝を付いて雑巾がけを黙々としている姿でした。どうして熱心に掃除をするのか生徒の一人に聞いたところ「素晴らしい校舎を建ててくれた茂木町の皆さんに感謝するには廊下をピカピカに磨くことが恩返しの方法ですから」と返ってきました。「環境が人をつくる」と言われていますが、まさに本校の生徒は、町が造ってくれたこの校舎によって、人間としての「感謝の気持ち」「報いるための行動」が自然に身についていることを改めて感じました。生徒ひとり一人の机にも、そして、壁にも落書き一つありません。茂木中学校の生徒たちは木造校舎という環境によって、人間としての在り方を自然のうちに教育されているのです。このような素晴らしい生徒たちを、さらに学力も、運動も、心も、今以上に磨きをかけてあげる責任を感じ、日々の学校経営をしっかりとして行かなければと決意した瞬間でした。

私も本校を44年前に卒業した一人として、生徒の教育をとおして、母校と茂木町に恩返しをしたいと思います。

木造建築の校舎内

清掃のようす

新任校長として

日光市立中宮祠小中学校長　佐　藤　恵津子

栃木県内で「男体山」が校歌の中に登場する小学校は80校あまりあるという。本校はその男体山の麓に位置する学校である。校庭には白樺が植えられ、校庭の西側から旧正門跡に出ると中禅寺湖が見える。小中併設校であり、小学校の創立は、1902年というから歴史のある学校である。そして私の母校でもあり、13年間勤務した学校でもある。昭和40年代に250名近くいた児童生徒は、今年度は小学校が13名、中学校は２名というところまで減ってしまった。しかし、児童生徒は明るく素直で元気である。２名しかいない中学生は、バドミントン部員として県大会出場を果たすなど、学校内外で活躍している。19年ぶりに本校に赴任して、児童生徒がこの学校に通ったことを誇りに思ってほしい、という思いを強くした。やしおつつじの花を見に行く自然観察会、華厳の滝での写生、裏山（男体山）での野鳥観察、戦場ヶ原への自然探索など、地域の特色いっぱいの教育活動を行っている。このような郷土愛を育てる活動は継承したいと思う。

近年叫ばれている小中連携・一貫教育の推進は、必然的に行われている。小中の教員が相互に乗り入れて授業を受け持ち専門性を生かしている。教育目標や学校課題で小中の整合性を図ることで、発達段階に応じた小中連携・一貫教育ができる。今年度は、学校課題で「学習過程を重視した授業づくり」に焦点を当て、全職員で研修を重ねてきた。

本校では、児童生徒と教員以外の職員も含めた全職員の一人一人が存在感をもち、一体となって中宮祠小中学校を盛り上げている。新任校長として母校である本校に赴任できたことに感謝し、校庭の白樺のように、児童生徒がまっすぐ育つよう学校経営に当たっていきたい。

新任校長として

大田原市立金田南中学校長　片　岡　一　郎

本校は大田原市のほぼ中央部に位置し、北に那須連山、東に八溝山系を臨む高台にあり、恵まれた自然環境の中にあります。また、近くには縄文時代の遺跡や那須神社など文化財も多くあり、歴史的にも古い地域です。

那須神社は、仁徳天皇時代の創立で、延暦年間に征夷大将軍坂上田村麻呂が応神天皇を祀って八幡宮にしたと伝えられています。春と秋の例大祭に奉納される太々神楽、獅子舞、流鏑馬などの行事が有名であり、那須与一が源平屋島の戦いで扇の的を弓矢で射落とす際、「南無八幡大菩薩…」と、心に念じた神社とも伝えられています。平成26年には本殿と楼門が国の重要文化財に指定されました。

学区内には奥沢小、金丸小の２つの小学校があり地域児童生徒の健全育成をめざして、小中連携事業を展開しています。全校生徒106名ですが、小規模校の利点を活かした教育活動を目指して日々実践を重ねています。

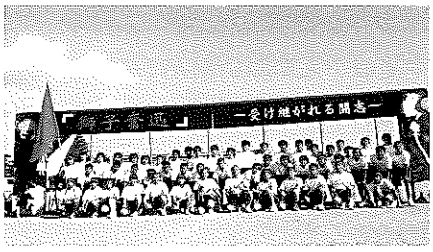
本校は、「１　進んで学ぶ生徒、２　思いやりのある生徒、３　健康で体力のある生徒」の教育目標のもと、「楽しい・きれいな・開かれた学校」「笑顔とありがとうがあふれる教室」をスローガンに掲げ、生徒たちは充実した学校生活を送っています。

主な学校行事は、春の体育祭、秋の文化祭（南創祭という名称で実施）があり、生徒や保護者に加えて多くの地域の方々にも足を運んでいただいています。また、秋には地域の高齢者を学校に招き、手芸や工作活動、生徒たちとのふれあい活動を行う「楽集会」という行事を開催しています。

本校では、「南中チャレンジ推進活動」と称して各学年２名の生徒が一週間交替で(1)全力で取り組む学習活動(2)みんなのためになるボランティア活動、の目標を立て実践する活動を行っています。

部活動では、運動部・文化部ともに熱心に活動していますが、中でもソフトボール部は、過去２度の全国大会優勝を誇り、今年度も関東大会優勝、全国大会ベスト８に輝いています。

職員組織においても小規模校のメリットを活かし全職員が学校経営への参画意識を高くもち、チームワークを大切にして教育活動にあたっています。

「職員室の環境作りを充実した教育活動の基盤」ととらえて学校経営にあたっています。

生徒・職員、そして家庭や地域の力を結集させて今まで本校が築き上げてきた歴史と伝統を受け継ぐとともに、さらなる飛躍を目指し充実した教育活動を展開していきたいと思います。